

令和4年度「特色ある学校づくり対策事業」実践事例

テーマ: 地域とふれあい、 豊かな心を育てよう

佐世保市立福石中学校
佐世保市干尽町2番10号
校長 福野 生人
生徒数 227名
学級数 10 (内特支2)

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見極めながら教育活動をしなければならなかった。その中で、本年度もテーマを「地域とふれあい、豊かな心を育てよう」とし、ウイズコロナの中でできることを模索し、地域に生きる生徒を育てようと努めた。

1 郷土人材活用による郷土学習の推進・深化

本校で長年の伝統となっているカルチャーズデイは、昨年度同様感染症の影響で実施することができなかった。だが、今後のことを展望し、講師の方に事情説明とお詫びの手紙を出し、人脈が切れないようにした。そして、郷土についての理解と関心を深め、次年度以降発展させていけるよう、総合的な学習の時間に地域探求の活動内容を加えた。スマートスクール SASEBO 構想による一人一台端末の配布により、個別最適な課題を深く掘り下げ研究することができた。

2 郷土人材招聘による情操の涵養

生徒が地域に出て行う活動はコロナ禍により実施できなかったが、感染拡大状況が緩和する時期に積極的に学校を開いた。長引くコロナ禍での生活の中、生徒たちは閉塞感を抱きがちであったが、地域から様々な人材を招き、触れ合いの中で学習することができた。

薬物乱用防止教室は、9月16日に実施した。長崎大学名誉教授の先生が、3年生に対し講話を行った。外部講師の専門的な話から、生徒たちは薬物乱用の恐ろしさを強く実感した様子であった。



2年生は、職場体験学習の代わりに6事業所から講師を招き、職業講話を行った。仕事について、様々な業界で働いている方から直に話を聞き、問答することで、自分自身のキャリアについて深く考えるきっかけとなった。

高齢者・障がい者疑似体験教室も、11月22日に行うことができた。2年生を対象に体験を行ったが、非常に貴重な体験となり生徒たちは大いに感銘を受けていた。



3 生徒の自律の促進

コロナ禍の生活では、生徒の心情のあり方が心配されるところであった。そこで、生徒の心情面を盛り上げ、情操を豊かにするような工夫を心がけた。

部活動は、制約の多い中、生徒たちは精いっぱい頑張りを見せ、成果をあげた。この状況においてできる活動は何かを考え、工夫する力が養うことができた。

スポーツ面だけではなく、文化面での頑張りも目覚ましかった。様々な作品が入賞し、情緒面での成長がみられた。

学力向上のため、年間を通したweb教材を用いた学習プリントの活用を行った。基礎基本を鍛えるための取組が行われ、働き方改革を進めつつ、個別最適な学習を推進することができた。

また、12月に本校独自で2回目の「心の状況調査」を行った。結果の分析を生徒に投げかけることで、生徒が自分たちで課題を解決しようとする姿勢を育てた。

さらに、本校の校旗の新調、校訓・生徒会スローガンの横断幕の作成を行い、生徒の学校への愛校心を育てる取組を行った。校訓、生徒会スローガンの横断幕は校門横に掲示し、今後は保護者や地域の方々への理解、協力をさらに推進し、地域に根差した学校教育の充実を図っていく。

コロナ禍で、何事も当初の予定や例年通りには行かず、全ての行事や活動は調整や変更の連続であった。生徒たちは思うようにいかないもどかしさの中で、3年目となるコロナ禍で、自ら今何ができるのかを考えた1年であった。だが、本事業のお陰で外部講師を潤沢に呼ぶことができたし、校内外の環境を整備することで情操を涵養することができた。その結果、生徒たちは活気あふれる学校活を送ることができた。

